

令和5年度 厚生文教委員会 委員派遣報告書

会 派 名	厚生文教委員会
議 員 名	住田 誠、村上 真以、角広 寛、宮垣 秀正、児玉 敬三、 新元 昭、中重 伸夫、寺田 元子
議員派遣先名	広島県教育支援センターSCHOOL“S” (東広島市八本松南1丁目2-1)

派遣費用

科 目	支出額	摘 要
交際費	2,376 円	視察先への手土産
合 計	2,376 円	

1 三原市での課題と派遣の目的（本市の現状と課題を明確に）

厚生文教委員会において、不登校児童生徒への支援をテーマに調査研究していることから、広島県の不登校支援の取り組みについて視察を行った。

2 実施概要（1カ所目）

実 施 日 時	派 遣 先	広島県教育支援センターSCHOOL“S” (東広島市八本松南1丁目2-1)
令和6年1月18日(木) 12:30~14:40	担 当 部 局	広島県教育委員会事務局 学びの変革推進部 個別最適な学び担当
報 告 内 容 ・ 所 感	<p>1 学びの変革アクション・プランの推進 「全ての児童生徒の主体的な学びの実現」に向け、市町の教育委員会及び学校とともに取り組みを進めていた。</p> <p>様々な取り組みを進める中で、主体的に学ぶことが難しい児童・生徒の中には、自己肯定感の低さや学ぶ楽しさ・できる喜びを感じた経験が少ないという状況が見られたことから、これまでの一斉指導を前提としたカリキュラムだけではなく、子どもの実態に応じた多様な選択肢と自己決定を意識した教育活動を推進していくことを目的として令和元年度に広島県において個別最適な学びの担当が新設された。</p> <p>2 不登校支援センター（令和3年度に新設）について 次の2つを柱とし、その実現に向けてSSR（スペシャルサポートルーム）</p>	

報 告 内 容 ・ 所 感	<p>推進校への支援や教育支援センター（SCHOOL “S”）による支援等の取り組みが進められていた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①不登校の未然防止 ②不登校児童生徒の社会的自立に向けた支援の強化・充実 <p>3 SSR（スペシャルサポートルーム）について</p> <p>令和元年度から、通常の教室とは異なる、不登校の児童・生徒が通えるような教室（SSR）を学校内に設置し、令和5年度は県内35校にまで拡充されていた。三原市では、沼田東小学校、宮浦中学校、久井中学校、第三中学校の計4校に設置されている。</p> <p>不登校SSR推進校に対する支援として、個別サポートの計画の作成や環境整備、中学校区としての一体的な取り組み等が行われていた。</p> <p>（SSRのあり方）</p> <p>次のことを心がけ、居場所づくりに努められていた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①安心安全な居場所 <p>不登校の児童・生徒が周りの視線を気にすることなく教室に入っていける工夫や個別学習・協働での学習の両立が可能なレイアウト等の工夫がされていた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ②個々の状況に応じて成長できる場所 <p>アセスメントの実施を大切にされており、児童・生徒及び保護者との面談等による共通理解のもとで、一人一人の状況に応じた短期目標及び長期目標を設定し、目標に対する支援が行われていた。</p> <p>（SSRで育てたい力）</p> <p>将来、児童生徒が社会に出たときに生きて働く力、社会的自立に繋がる力として、次の2つを育てることを目標とされていた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①相談する力 ②自分の強みを知って活かす。苦手な場面でSOSを出す力 <p>4 SCHOOL “S”（不登校支援センター）</p> <p>不登校支援センターは30年前から設置されていたものの、今の子供たちに合った環境づくりができていない状況で、利用も低迷していたため、「SCHOOL “S”」としてリニューアルし、児童・生徒が行きたいと思える環境を整備された。</p> <p>環境整備については、SSR（スペシャルサポートルーム）のコンセプトと同様に、学校らしく見えない、明るい雰囲気を出すことに努められていた。新しい取り組みとして、SCHOOL “S”に通うことができない児童・生</p>
---------------------------------	--

	<p>徒のためにオンラインで利用できる機器を整備し、ラジオ感覚で参加したくなるようなスタイルが確立されていた。</p> <p>スタッフのほか、大学生のボランティアで運営し、現在利用登録者が243名。リニューアル前は1桁だった利用者数が大きく増加し、オンライン参加を含めた1日平均の利用者数は50名程度であった。</p> <p>トラブルが発生することも多々あるが、一人一人に丁寧に寄り添いながら解決されていて、それがSCHOOL“S”の良さであるということであった。</p>
<p>市政に活かせること（まとめ）</p>	<p>SCHOOL“S”を利用している児童・生徒はとても輝いて見えた。</p> <p>SCHOOL“S”はリニューアルの際に環境整備にしっかりと取り組まれ、学校と異なる部屋のデザインなど、馴染みやすさを感じられる様々な工夫が施されていた。専門講師の指導を受けながら、児童・生徒が描いた壁もあり、壁紙などに少し手を加えることで児童・生徒の印象が変わり、変化があるのであれば、このような取り組みは本市においても活かせるのではないかと感じた。</p> <p>このほか、広島県では東京大学先端科学技術研究センターと連携し、広島LEARNプロジェクトとして、様々な企業や自治体等の協力を得ながら、ユニークな体験学習を計画・実施されていた。今後の参考にしていきたい。</p>

※ 施設先の写真・資料等を必ず添付すること。